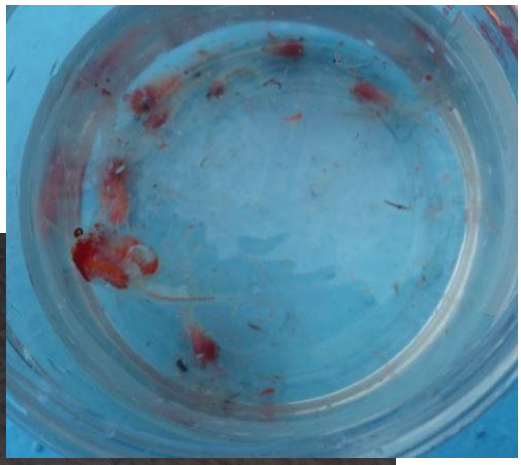
「ほうじょう」コラム

題　小田原沖の深海プランクトンの採集に挑む～続編

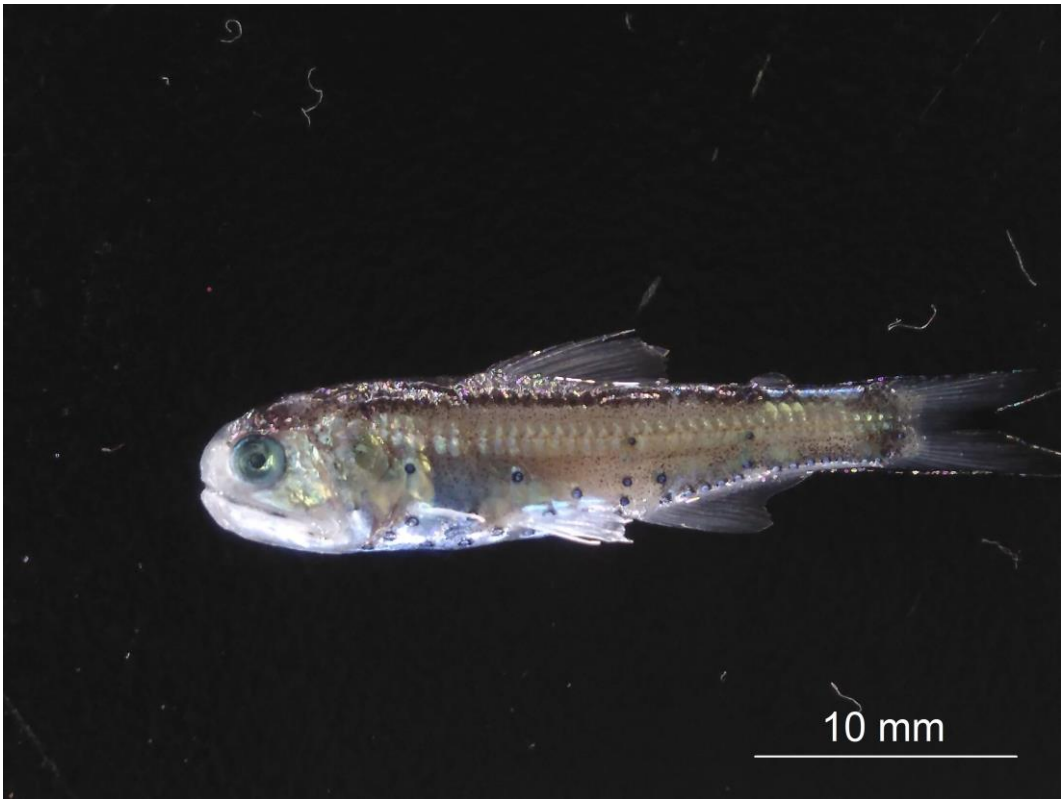
水産職　吹野友里子

８月に掲載したコラム「小田原の深海プランクトンの採集に挑む」の深海プランクトン調査の続きです。
北里大学の山田先生同乗で、月に１回のペースで行っています。
（前回のコラム、採集の様子）
今回は、１１月の調査までに採集されたプランクトンの画像をメインにご紹介します。
寒くなり水温が低下するにつれて、採れるプランクトンの個体数も少なくなっています。



９月に採集された、深海性のアミの仲間です。　*Gnathophausia longispina*

こちらは、１０月の調査で採集されたハダカイワシの仲間、センハダカです。



Diaphus suborbitalis

地域によっては食用にもなる魚です。昼間は浅いところに生息し、ネットで採集すると鱗がはがれやすいため“ハダカイワシ”という名前がついています。このようにきれいな姿で採集されることは珍しく、腹面にある点々が発光器で、この位置や数で種を同定します。

貝虫類

ヤムシ類

オキアミ類　*Nematoscelis microps*

様々なカイアシ類が採集されました。

Scottocalanus securifrons　（雌）

Scottocalanus securifrons　（雄）

Pleuromamma xiphias（雌）

Paraeuchaeta tuberculata（雌）

通常、外洋の中層から深層で見られることが多いこれらのカイアシ類が、海岸からわずか３km 沖のごく沿岸で採集されたことは、急峻な海底地形をもつ小田原沖に特有のことと言えるでしょう。これらのカイアシ類は外洋から運ばれてきたのか、それとも小田原沖で世代を重ねているのか、興味深いところです。

深海プランクトン調査は冬場の寒い時期にも行う予定です。
先日行った１２月の調査は、今までは、プランクトンネットの目合を、0.3mm から 0.1mm と細かくして採集しました。これにより、さらに小さなプランクトンも採集可能になりました。

船上から見る海は、夏の間と比べると見た目にもきれいです。
本格的に寒くなり、どのようなプランクトンが採集されるのか楽しみです。

尚、今回のプランクトンの画像は、全て北里大学講師、山田雄一郎氏が提供くださいました。